

FD・SD共通

プログラム番号 08234H シンポジウム

アクティブ・ラーニングを通して、いかに学生に

深い学びをもたらすかー教員・職員と共に考えるー

■講師



溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

神戸大学教育学部卒業。京都大学博士（教育学）。京都大学高等教育教授システム開発センター助手、講師を経て、2003年より現職。大学院教育学研究科兼任。大阪府立大学学長補佐兼任。日本青年心理学会理事、日本発達心理学会理事、大学教育学会常任理事、Journal of Adolescence Editorial Board など。



土持ゲーリー法一（帝京大学高等教育開発センター長・教授）

米国コロンビア大学東アジア研究所研究科修了。コロンビア大学大学院ティーチャーズ・カレッジ（比較教育学専攻）で教育学博士号取得。東京大学大学院で教育学博士号取得。弘前大学 21 世紀教育センター高等教育研究開発室教授を経て、現職。



福田 直史（高知工科大学総務部長）

関西の私立大学で8年間入試・広報・将来計画業務に携わり、2000年、高知工科大学に着任。2008年マネジメント学部開設、2009年工学部再編、同年、日本初の私立大学から公立大学法人への移行業務等を担当。入試部長、企画広報部長等を経て、2010年から現職。

司 会： 宮田 政徳（徳島大学大学開放実践センター准教授）

■プログラム概要

今日、日本も含め世界の高等教育界では、教育の質保証(Accreditation)・説明責任(Accountability)のため、教授中心から学習(者)中心へと教育のパラダイムシフトが重要視されています。その学習(者)中心の教育を行うためには、学生の深い学び(Deep approach to learning)が必要不可欠であることが学会等で盛んに議論されています。そのため、今年のSPODフォーラムでは統一テーマ「学生に深い学びをもたらすために」を掲げ、プログラムを展開しています。そこで、フォーラムの中心プログラムであるシンポジウムは、深い学びをもたらすために有効的であると言われているアクティブ・ラーニングに焦点をあて、「アクティブ・ラーニングを通して、いかに学生に深い学びをもたらすか」というテーマを設定しました。

本シンポジウムでは、先ず3人のパネリストに情報提供をお願いします。即ち、アクティブ・ラーニングとはどのようなものなのかというアクティブ・ラーニングの理論的背景と、いま開発しているピアインストラクションの実践報告を溝上慎一氏に、さらにアクティブ・ラーニングの国内外での実践例を土持ゲーリー法一氏に、最後にアクティブ・ラーニングを行うための学習環境整備を福田直史氏にお話頂きます。

後半部分では、参加者同士のEQトーク(パネリストの話に同意する点・不明点・疑問点を参加者2～3名で話し合うこと)を通して参加者同士のアクティブ・ラーニングと、そのEQトークから生じた不明点・疑問点をパネリストへ質問することによって、参加者とパネリスト間の双方向性のやりとりによるアクティブ・ラーニングを目指します。

■日時・会場・受講定員

日 時： 平成24年8月23日(木) 15:30～17:50

会 場： 徳島大学 常三島キャンパス 共通講義棟 6階 創成学習スタジオ

定 員： 200名